



4 小学校後期（10～12歳）

この時期は、一方的な要求や叱責ではなく、子どもとの対話を大切にして、子どもが他者との関係の中で自分の存在を認められるように支援することが大切です。

他者意識の芽生え

- 他者との関係の中で、自分のことを考えたり他者への接し方を考えたりするようになる。
- 他者との関係の中で、善悪の判断がつく。
- 自分の感情や欲求を抑えることができる。
- トラブルを解決しようとすることができる。
- 失敗から学ぶことができる。
- 集団の中で自分の役割を意識し、責任を果たそうとする。
- 生き物の世話ができる。



保護者のかかわりは？

- ★子どもと周りの友達との関係を支えましょう。
 - ・子どもの人間関係を把握する。
 - ・金銭や物を与えすぎない。
 - ・地域行事や体験活動に、子どもと共に積極的に参加する。
 - ・子どもが失敗したり悩んだりしている時は、よき相談相手となる。
- ★子どもの自己有用感（自分が必要とされていると感じる気持ち）を育てましょう。
 - ・家族の一員としての役割をもたせることで、「自分は家族の中で、なくてはならない大切な存在である」と感じさせる。
 - ・学習やお手伝いなど様々な経験を積ませることで、「自分は自分なりにやっていける力がある」と感じさせる。

